

公衆のリスク認知 (risk perception of the public)

公衆のリスク認知は不合理か？ (Is public risk perception irrational?)

1 シュレーダー＝フレchetteの議論(Schrader-Frechette ch. 2)

フレchetteは公衆が不合理だとするさまざまな議論に反論

(1) 環境保護論者たちは反産業的(anti-industry)

←そもそもなぜ環境保護運動をやるかの原因を知るのは困難

← 環境保護論者の多くが政府や産業による保護をもとめていて、反政府・半産業というのはあたらない

←じっさいいろいろな大事故があるのだから反産業などの理由はいらぬ

(2) 権力(power)や影響力(influence)の中心から遠い人たちが環境保護論者になっている

←環境保護論者にもいろいろな人がいるので社会的要因にすべて還元してしまおうという考え方はもっともらしくない

←心理的要因も重要

(3) 一般人は臆病で無知 (fearful and ignorant)

←われわれがリスクを受け入れるのは、リスクの大きさがわかっているとき。不確実性(uncertainty)があるときにリスクを受け入れないのは筋がとおっている

(4) 一般人は生活が昔より格段に安全になっていることを忘れている(laypersons forget that life is getting safer)

←リスクをきらう理由はいろいろありうる。安全になっているからいいというものではない。リスクの分配のあり方に反対しているかもしれない。あるいは、うまくやればもっと安全になるはずなのに、それが実現していないといって批判している可能性もある。

(5) 一般人は現実的でない(unrealistic)けっして満足しない(never satisfied)

←証拠がない。

←けっして満足しないといって批判する背景には当然満足すべきだという前提があるが、本当に満足すべきなのか。黒人差別について不十分な対策を示されて「今できることはこれだけ

だ」といわれても満足しないというのは理にかなっているように思えるが、それと同じことが環境破壊についても言えないか。

2 スロヴィックらの研究 (Slovic 2000)

2-1 計量心理学パラダイム(psychometric paradigm)

リスクを一般人がどうとらえているかを、本人たちに実際に聞いてみるというやりかたで研究リスクにかかわるさまざまな要因に関する人々の判断を尺度化し、相関を調べる

2-2 顕示選好 (revealed preference) vs. 表明選好 (expressed preference)

スター(Starr)の研究はもっぱら顕示選好に基づく

- ・リスクの許容可能性はその活動から得られる利益の三乗に比例(**proportional to the third power of the benefit**)
- ・自発的ハザード(**voluntary hazards**)は非自発的ハザード(**involuntary hazards**)に比べて約 1000 倍まで許容可能

このやり方で調査できる内容は限られているので、スロヴィックらは直接聞いてみることにした。

2-3 専門家と非専門家の序列の差

専門家と非専門家のさまざまなグループ (女性有権者同盟 LOWV、大学生、活動家グループ) に対して、「アメリカ社会全体で、この活動や技術の結果死ぬリスクの大きさを見積もって順位をつけてください」 (“to consider the risk of dying (across all US society as a whole) as a consequence of this activity or technology”) ときいたところ、専門家と非専門家では系統的なズレが存在した。差が目立つのは nuclear power, electric power, X ray, police work など

2-4 因子分析 (factor analysis)

スロヴィックは一般人のリスク認知と相関のある質問項目を因子分析にかけ、二因子を抽出

“dread risk” 「おそろしいリスク」因子

コントロール不能、おそろしい、世界的な破滅、命にかかわる結果、平等でない、破滅的、未来世代に高いリスク、簡単に削減できない、リスクが高まっている、非自発的

“unknown risk” 「未知リスク」 因子

観察できない、そのリスクにさらされている人が知らない、効果が遅れる、新しい、科学でまだわかっていない

この二つの因子が高いほどリスクは大きく見積もられる傾向（原子力は両方の要因があるため非常に高くなる）

2-5 その他の要因

スロヴィックらのチームはこの延長線上で、リスク認知に影響を与えるさまざまな心理的要因を明るみに出している。（Slovic 2000, xxxiii-xxxv）

- ・世界観（worldview） 平等主義者はリスクを嫌う傾向がある
- ・白人男性効果（white male effect） なぜかアメリカの白人男性は女性や非白人男性よりリスクに対する許容性が高い
- ・信頼（trust） 専門家に対する信頼の高さは専門家の提供する情報をどれだけ信用するかに影響を与える。信頼は非対称的、つまり、一度失うと回復するのが非常に困難。対立する専門家同士がお互いを避難しあうとかもう最悪。

2-6 一般人は不合理か

スロヴィックは、こうした一般人のリスク認知の構造は、技術的なリスク分析よりも豊かな構造を持っていると肯定的に評価。リスクコミュニケーションが双方向的であるべきだという結論も。

“Laypeople sometimes lack certain information about hazards. However, their basic conceptualization of risk is much richer than that of the experts and reflects legitimate concerns that are typically omitted from expert risk assessments. As a result, risk communication and risk management efforts are destined to fail unless they are structured as a two-way process” (Slovic 2000, p.231)